

久留米市地場企業景況調査レポート(平成20年7月～9月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

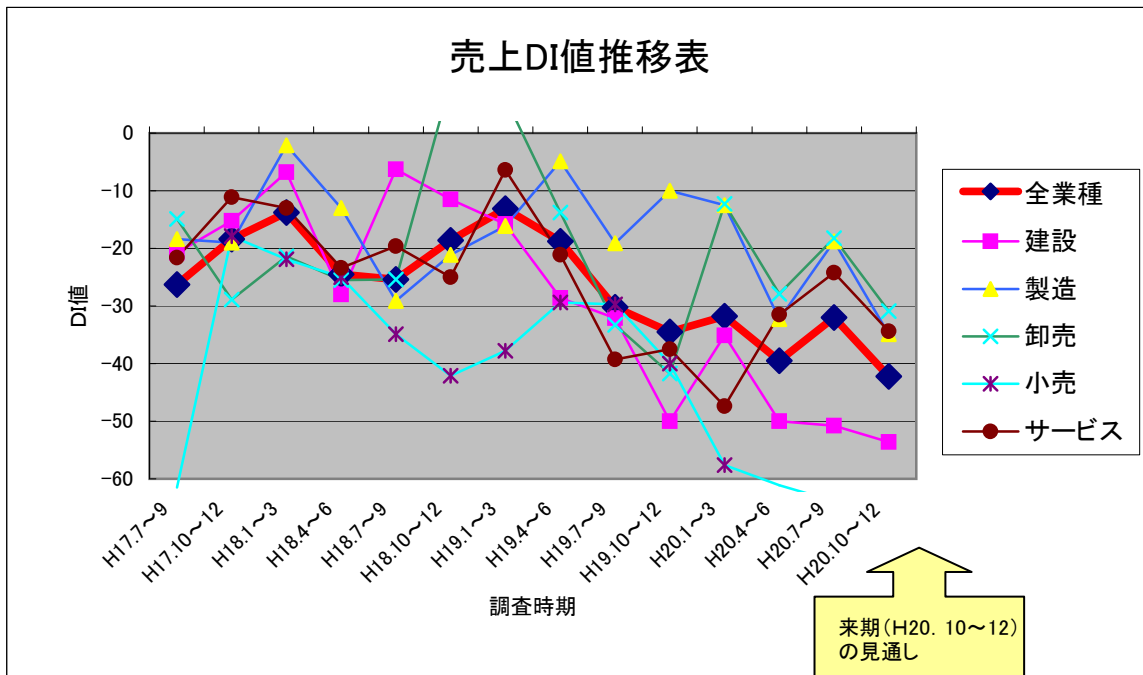
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

<平成20年7月～9月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	282	47.0%
建設業	120	59	49.2%
製造業	120	65	54.2%
卸売業	120	56	46.7%
小売業	120	36	30.0%
サービス業	120	66	55.0%

売上DI値推移表

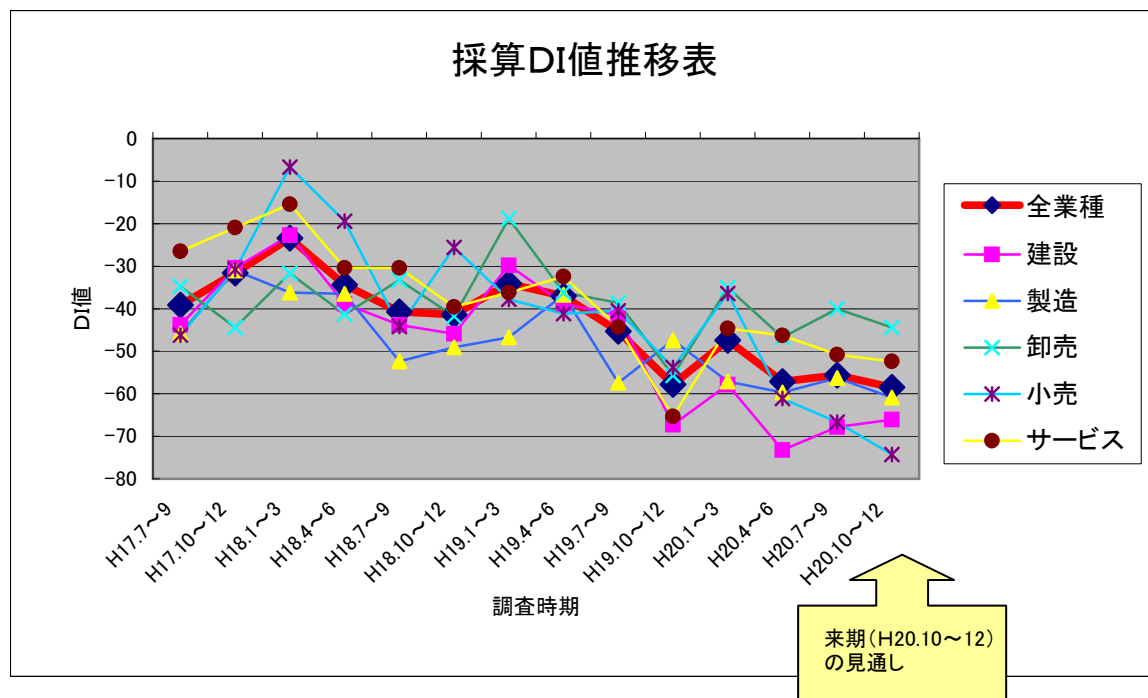


今期(H20. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は61社(前期比14社増)、「減少した」と回答した企業は150社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は67社(前期比同)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに縮小して▲32. 0となり、前期比で7. 5ポイント好転した。

業種別のDI値では、建設業▲50. 8(前期比0. 8P悪化)、製造業▲18. 8(前期比13. 2P好転)、卸売業▲18. 2(前期比9. 7P好転)、小売業▲63. 9(前期比2. 8P悪化)、サービス業▲24. 2(前期比7. 3P好転)となった。

来期(H20. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲42. 2と、10. 2ポイント悪化する見込み。

採算DI値推移表

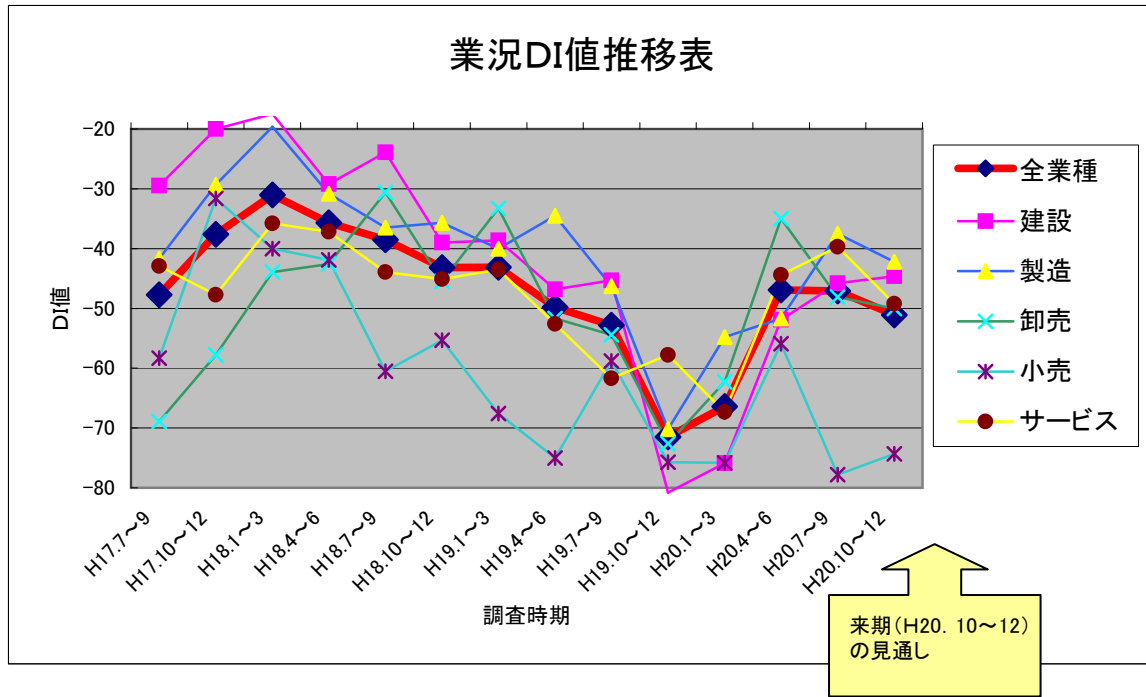


今期(H20. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は25社(前期比8社増)、「悪化した」と回答した企業は180社(前期比10社増)、「横ばいである」と答えた企業は74社(前期比7社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに縮小して▲55. 6となり、前期比で1. 5ポイント好転した。

業種別のDI値では、建設業▲67. 8(前期比5. 4P好転)、製造業▲56. 3(前期比3. 4P好転)、卸売業▲40. 0(前期比6. 7P好転)、小売業▲66. 7(前期比5. 6P悪化)、サービス業▲50. 8(前期比4. 5P悪化)となった。

来期(H20. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲58. 5と、2. 9ポイント悪化する見込み。

業況DI値推移表

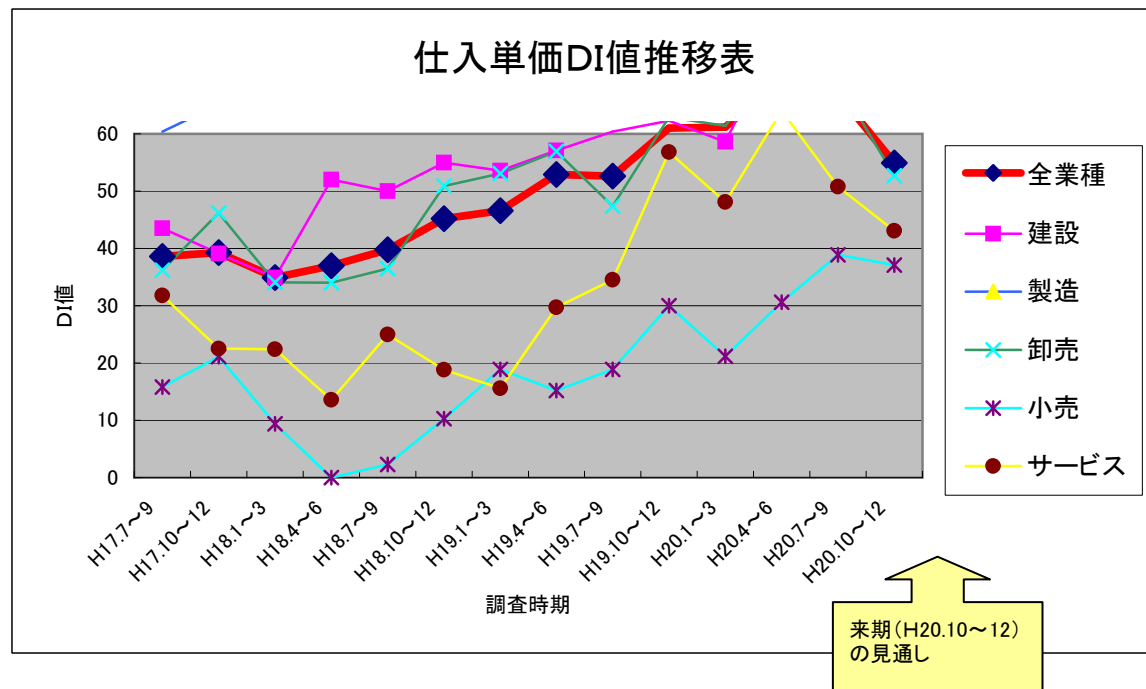


今期(H20. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は19社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は149社(前期比10社増)、「横ばいである」と答えた企業は108社(前期比1社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲47.1となり、前期比で0.2ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲45.8(前期比6.1P好転)、製造業▲37.5(前期比14.2P好転)、卸売業▲48.1(前期比13.1P悪化)、小売業▲77.8(前期比21.9P悪化)、サービス業▲39.7(前期比4.7P好転)となった。

来期(H20. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲51.1と、4ポイント悪化する見込み。

仕入単価DI値推移表

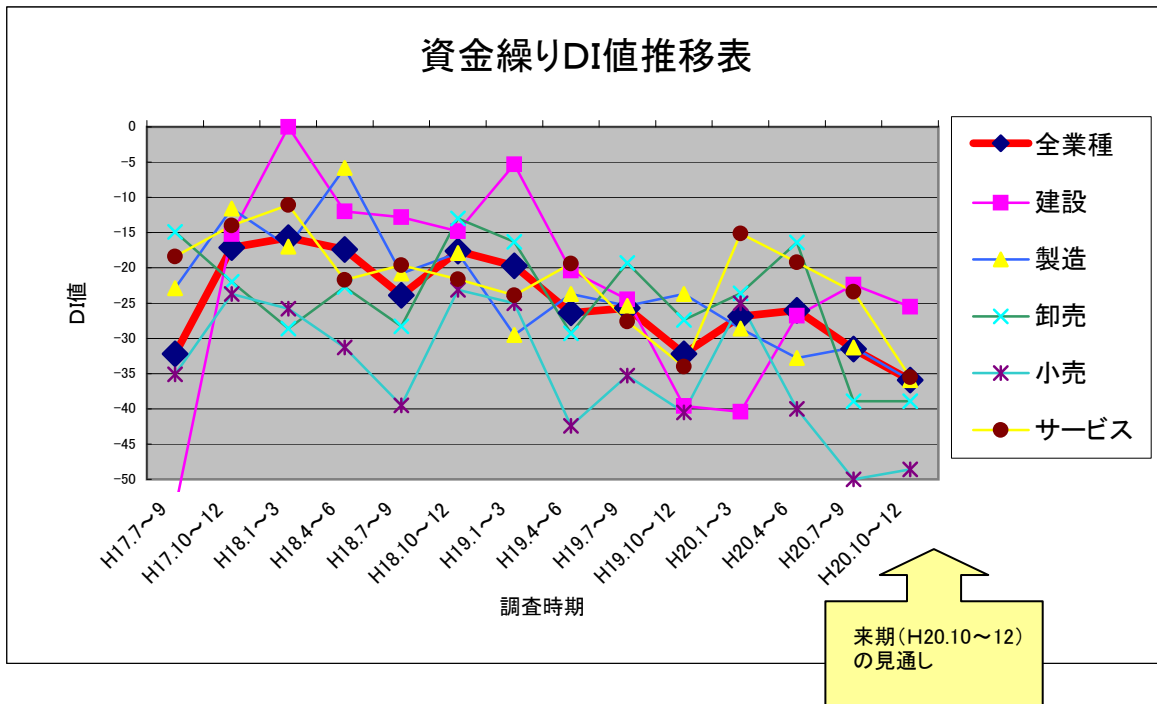


今期(H20. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は194社(前期比1社減)、「低下した」と回答した企業は11社(前期比同)、「横ばいである」と答えた企業は68社(前期比10社増)であった。DI値を見ると、4期ぶりに縮小して67.0となり、前期比で2.7ポイント好転した。

業種別のDI値では、建設業77.6(前期比0.6P好転)、製造業86.2(前期比0.7P悪化)、卸売業69.1(前期比4.7P好転)、小売業38.9(前期比8.3P悪化)、サービス業50.8(前期比13.2P好転)となった。

来期(H20. 10~12)の見通しでは全業種DI値は54.9と、12.1ポイント好転する見込み。

資金繰りDI値推移表

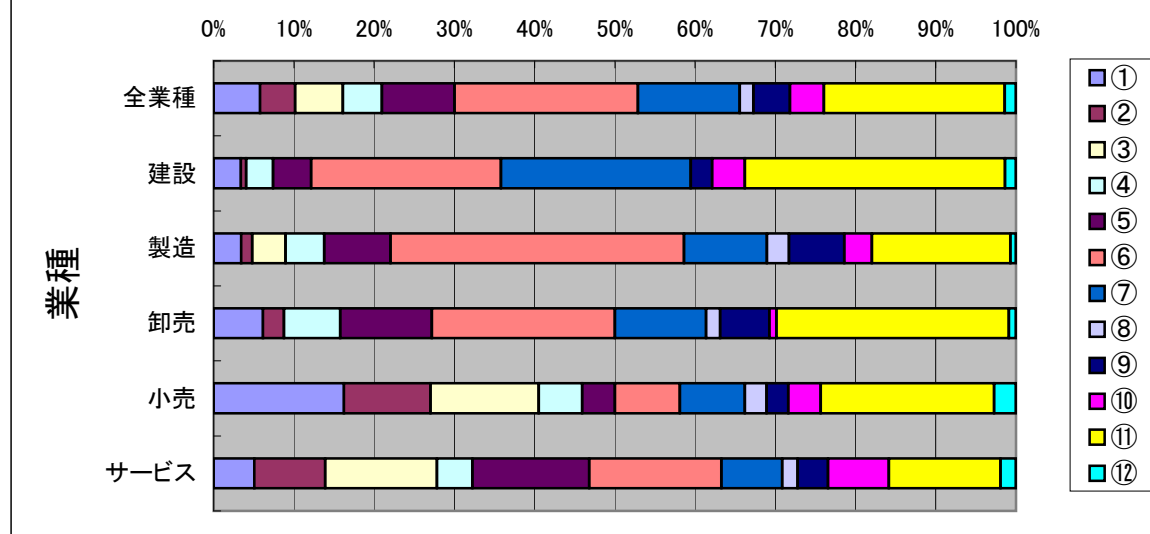


今期(H20. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は9社(前期比4社減)、「悪化した」と回答した企業は96社(前期比14社増)、「横ばいである」と答えた企業は171社(前期比1社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに拡大して▲31. 5となり、前期比で5. 5ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲22. 4(前期比4. 4P好転)、製造業▲31. 3(前期比1. 5P好転)、卸売業▲38. 9(前期比22. 5P悪化)、小売業▲50. 0(前期比10P悪化)、サービス業▲23. 4(前期比4. 2P悪化)となった。

来期(H20. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲35. 9と、4. 4ポイント悪化する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H20. 7~9)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(22. 8%)」「需要の停滞(22. 5%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、建設業での「需要の停滞32. 4%)」、製造業の「仕入単価の上昇(36. 5%)」、卸売業の「需要の停滞(28. 9%)」、小売業の「需要の停滞(21. 6%)」、サービス業の「仕入単価の上昇(16. 4%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

- 原材料価格が高騰し、取引条件が悪化している。(屋根工事業)
- 金融危機による信用不安があらゆる面で悪影響を及ぼしている。(一般土木建築工事業)
- 今期の売上は増加しているが、仕入単価の増加や請負単価が低く採算が合わない。(電気工事業)
- 今期は引き合いが活発になり、受注額が増加した。(土木建築サービス業)
- 官公・民間需要が停滞し、請負工事額が減少している。(塗装工事業)
- 水産加工品は原料価格が昨年同時期に比べ5割増加しているが、商品価格に転嫁できない。(水産食品製造業)
- 売上は減少しているが、採算は何とか維持できている。(建築材料卸売業)
- 来期の売上増加を見込み、設備投資を考えている。(その他のプラスチック製品製造業)
- 借入金利も上昇しているため、資金繰りが悪化している。(一般産業用機械・装置製造業)
- 原材料が高騰している割に製品の単価が低いため競争が激しい。(セメント・同製品製造業)
- 仕入単価の上昇が続いているが、販売価格に転嫁できない。(一般機械器具卸売業)
- 引き合いが低調になり、在庫が増加している。(建築材料卸売業)
- 人件費以外の経費が増加し、採算が悪化している。(一般機械器具卸売業)
- 売上が順調に推移し、業況が好転している。(建築材料卸売業)
- 事故米の風評被害で急激に売上が悪化した。(農畜産物・水産物卸売業)
- 小麦粉等の仕入価格高騰により資金繰りに苦労している。(食料・飲料卸売業)
- 店舗が老朽化しているため、来期は店舗改装を行う予定。(書籍・文房具小売業)
- インターネットでの低価格販売により、競争が激化している。(自動車小売業)
- 採算が好転してきたため、来期は設備投資を行う予定。(燃料小売業)
- 消費者が他地域へ流出し客数が減少している。(百貨店)
- 売上は現状維持であるが、後継者がいないことが一番心配。(他に分類されない小売業)
- 景気が改善されず、原材料価格の上昇が続いている。(理容業)
- 常連さんの来店頻度が減少してきている。(理容業)
- 新規取引先が増えたため、来期の売上増加に期待できる。(その他の物品賃貸業)
- 競争が激化しており、ほとんどの駐車場の売上が減少している。(駐車場業)
- 地場での受注が少なくなり、今後の売上が減少することが予想される。(ソフトウェア業)